

生物多様性保全

当社グループは、生物の恵みを得ながら人間社会が存続し続ける「持続可能で自然と共生する社会の実現」は、人類の存続にも影響を与える重要な課題であると考えています。森林や里山などの保全活動や地域緑化活動への参加等を通じて生物多様性保全活動を推進します。

「企業の森づくり活動」への参画

2024年5月と11月に「企業の森づくり活動」を実施しました。「企業の森づくり活動」とは、企業や地域、地元自治体とが協同して森林の保全活動に取り組むもので、当社は、兵庫県、姫路市ならびに公益社団法人兵庫県緑化推進協会の4者間で2029年5月までを対象期間とする協定を締結しました。姫路市立藤ノ木山自然公園の森林の一部(1.46ha)を「さんとかん 未来の森」と名付け、活動に取り組んでいます。今年度の活動では、NPO法人ひょうご森の倶楽部の方々の指導のもと、当社従業員が木々の伐採作業を行いました。



伐採作業



「さんとかん 未来の森」と命名

地域緑化活動

当社は、一般社団法人 姫路市まちづくり振興機構の活動に賛同し、2023年12月より姫路市と市民ボランティアと協同で姫路駅北の玄関口である「キャッスルガーデン」の植栽管理と清掃活動を行う緑化ボランティア活動に参加しています



植栽管理



清掃活動

TNFDに沿った自然資本等への依存関係の把握

当社やグループ会社、取引先(特に仕入れ先)の自然資本への依存度や影響を把握し、リスク管理や持続可能な事業運営につなげることを目的として、自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)が推奨するLEAPアプローチに沿った評価・分析を行いました。当社の事業活動と自然との重要な依存・影響関係の特定にあたり、自然資本や生態系サービスへの影響・依存関係を、ENCOREを用いてセクターレベルで評価しました。また、自然との接点の発見に関しては、IBAT(Integrated Biodiversity Assessment Tool(生物多様性統合評価ツール))、WWF Biodiversity Risk Filter、Aqueduct等の評価ツールを用い、優先地域(依存・影響、リスク・機会の観点から当社にとって重要な地域であり、かつ、事業活動による影響を受けやすい地域)を特定しました。

OVAKOにおける自然の循環活動

OVAKO(Hofors工場)では、希少な植物種を保護するために、工場内の一部を放牧地として管理しています。そこには牛が放牧されており、草を食み、排泄物が植物の肥料となり、生態系が健全に維持されています。



工場内放牧地の牛

SSMIにおける植樹活動

SSMIでは、毎年6月の世界環境デーに合わせて、環境保護の重要性を啓発し、持続可能な未来を目指す取り組みの一環として植樹活動を行っています。社員が参加し、地域の緑化に貢献しています。



植樹活動

経団連生物多様性宣言イニシアチブへの賛同

当社は、日本経済団体連合会と経団連自然保護協議会が策定した「経団連生物多様性宣言・行動指針」の趣旨に賛同し、「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に参画しました。



経団連生物多様性宣言イニシアチブのロゴマーク

経団連のHPに掲載されている
当社の生物多様性取組方針・事例